

# 2024年3月期 決算説明資料

証券コード:5356(東証スタンダード・名証メイン)



## Contents

01 会社概要

---

02 2024年3月期 決算報告

---

03 中期経営計画

---

04 2025年3月期 業績予想

# ◆ 会社概要

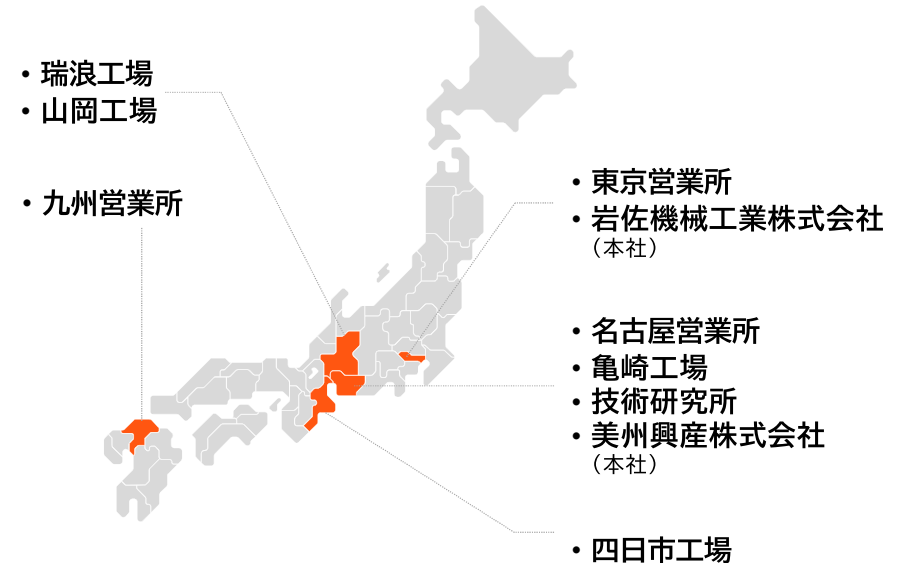


**MISSION** セラミックスを源流に、独自・多様な技術を磨き、社会の発展に貢献する。  
一味違う強い特徴を持つ、質の高い企業グループを目指す。

社名	美濃窯業(みのようぎょう)株式会社
設立	1918(大正7)年 8月14日
資本金	8億7,700万円
社長	太田 滋俊
従業員数	連結331名 単体263名

美濃窯業 グループ 事業内容	耐火物事業 .....	
	プラント事業 .....	
	建材及び 舗装用材事業 .....	

**所在地** 本社:岐阜県瑞浪市寺河戸町719  
本社事務所:愛知県名古屋市中村区名駅南1-17-28





# 2024年3月期 決算報告



売上高

141.5億円

前年同期比  $\Delta 3.1\%$

営業利益

13.5億円

前年同期比  $\Delta 3.0\%$

親会社株主に帰属する  
当期純利益

10.5億円

前年同期比  $\Delta 1.6\%$



外部環境

内部環境

- 耐火物主要顧客であるセメント業界の国内生産量が20か月連続で前年同月を下回る
- 半導体関連需要の低迷により前年度増加した顧客の設備投資が一段落
- 建材及び舗装用材事業では鉄道各社の業績の回復に伴う設備投資の増加
- 設備改善や生産性の向上への取り組みの継続
- 環境に配慮した事業活動の推進
  - 従来比 最大70%の燃料/CO<sub>2</sub>発生量削減可能な次世代省エネルギー型工業炉の開発
  - 経済産業省による事業者クラス分け評価制度で5年連続Sクラス評価を獲得(省エネ法)

# ◆ 連結決算概要

2024年3月期



- ✓ 耐火物事業は、需要が低迷する中、価格改定の進捗及び市場シェアの拡大により増収増益
- ✓ プラント事業は、工事部門が順調に推移したものの、設備部門の低迷により減収減益
- ✓ 建材及び舗装用材事業は、鉄道各社向けの売上回復や価格改定により増収増益

(百万円)

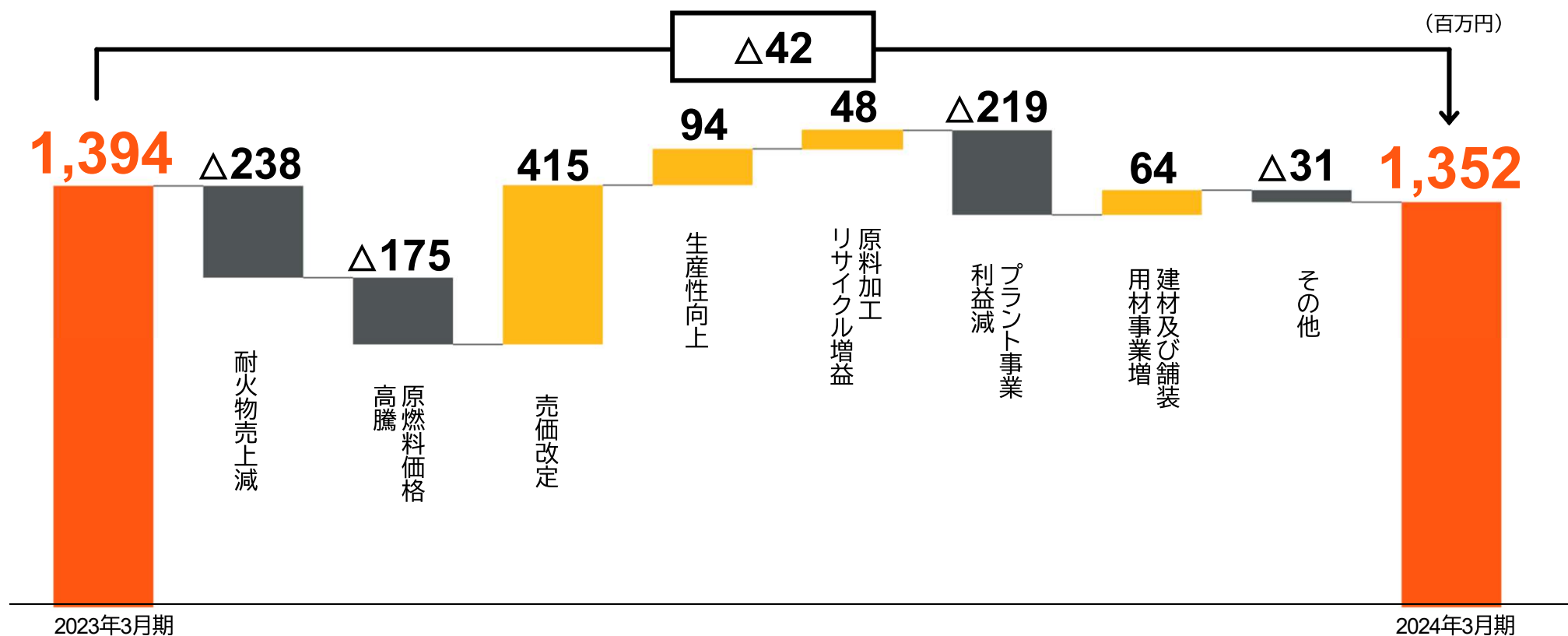
	2023年3月期 実績	2024年3月期		前年同期比 (増減額)
		実績	売上比	
売上高	14,609	14,159	—	△3.1% (△449)
営業利益	1,394	1,352	9.5%	△3.0% (△42)
経常利益	1,528	1,469	10.4%	△3.8% (△58)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,072	1,054	7.4%	△1.6% (△17)
1株当たり当期純利益	104.59円	102.87円	—	△1.72円

# ◆ 連結営業利益の増減分析

2024年3月期



耐火物事業の原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁が進んだものの、耐火物需要が低迷。また、半導体設備の投資抑制による影響を受けプラント事業が減益となった結果、営業利益は前年同期比で△42百万円と減少



# ◆ 連結決算 セグメント別

2024年3月期



耐火物事業は原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁及び設備改善や生産性の向上により増収増益、プラント事業は半導体関連需要の低迷により減収減益、建材及び舗装用材事業は各種製品の価格改定及び鉄道各社の業績回復に伴う設備投資の増加による売上回復等により増収増益

(百万円)

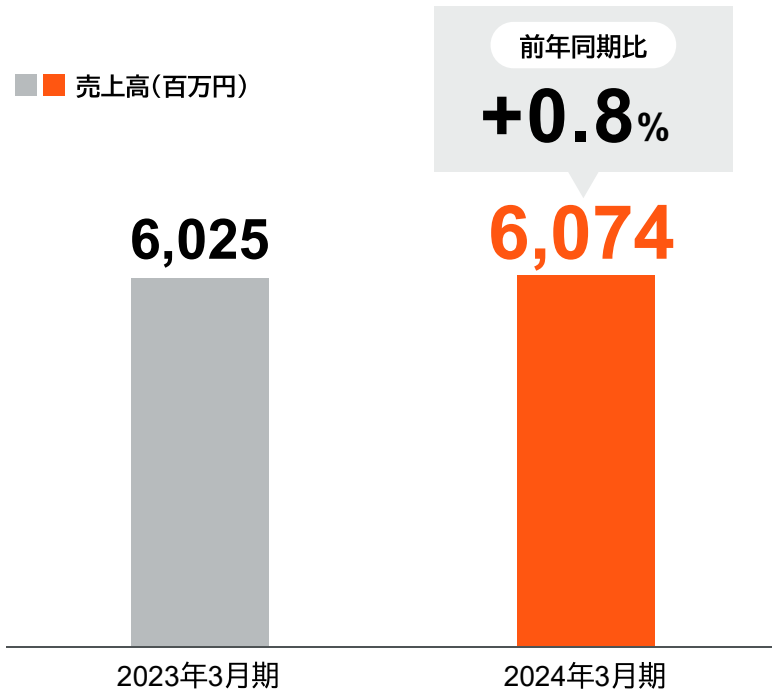
		2023年3月期	2024年3月期	前年同期比
耐火物	売上高	6,025	<b>6,074</b>	+49 (+0.8%)
	セグメント利益	141	<b>250</b>	+109 (+77.6%)
プラント	売上高	5,702	<b>5,068</b>	△634 (△11.1%)
	セグメント利益	912	<b>706</b>	△205 (△22.5%)
建材及び舗装用材	売上高	2,374	<b>2,517</b>	+142 (+6.0%)
	セグメント利益	126	<b>190</b>	+63 (+50.3%)
不動産賃貸	売上高	381	<b>380</b>	△1 (△0.3%)
	セグメント利益	187	<b>177</b>	△9 (△5.1%)
その他	売上高	125	<b>118</b>	△6 (△5.0%)
	セグメント利益	24	<b>24</b>	+0 (+0.3%)
調整額	セグメント利益	2	<b>2</b>	△0 -
合計	売上高	14,609	<b>14,159</b>	△449 (△3.1%)
	営業利益	1,394	<b>1,352</b>	△42 (△3.0%)



# ◆ 決算概況 耐火物事業

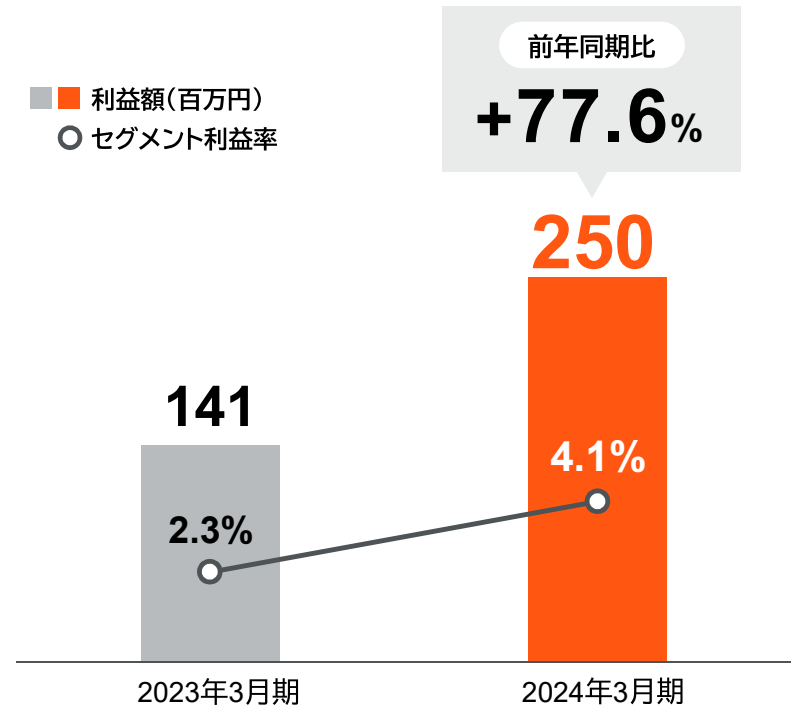
## 売上高

耐火物需要は低迷するも、原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁が進み、増収



## セグメント利益

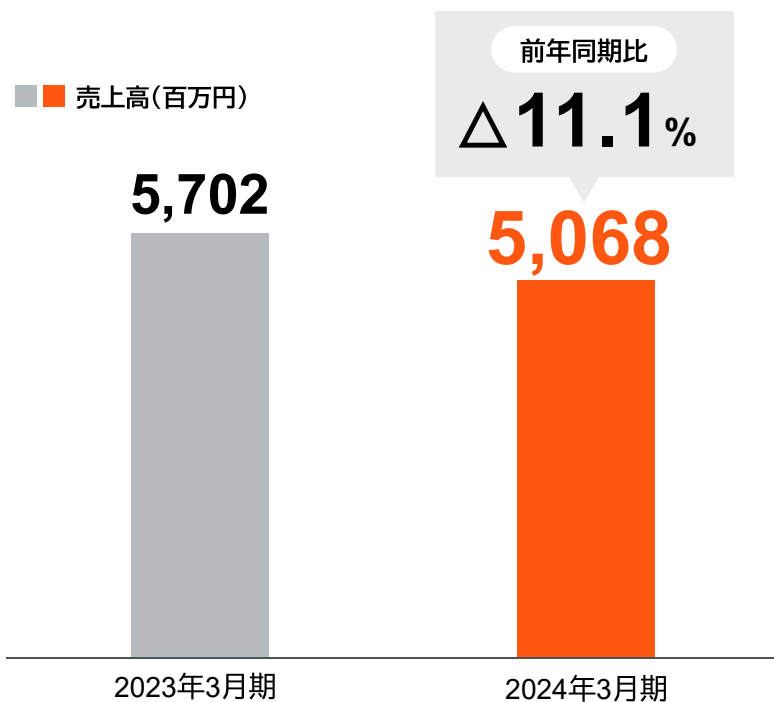
販売価格への転嫁に加え、設備改善や生産性の向上により増益



# ◆ 決算概況 プラント事業

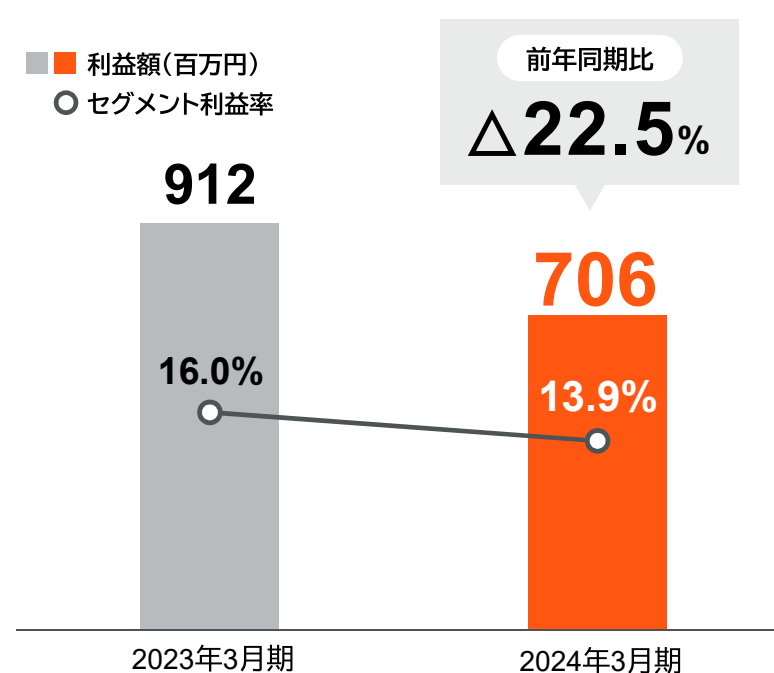
## 売上高

工事部門は順調に推移するも、設備部門は半導体関連需要の低迷により全体では減収



## セグメント利益

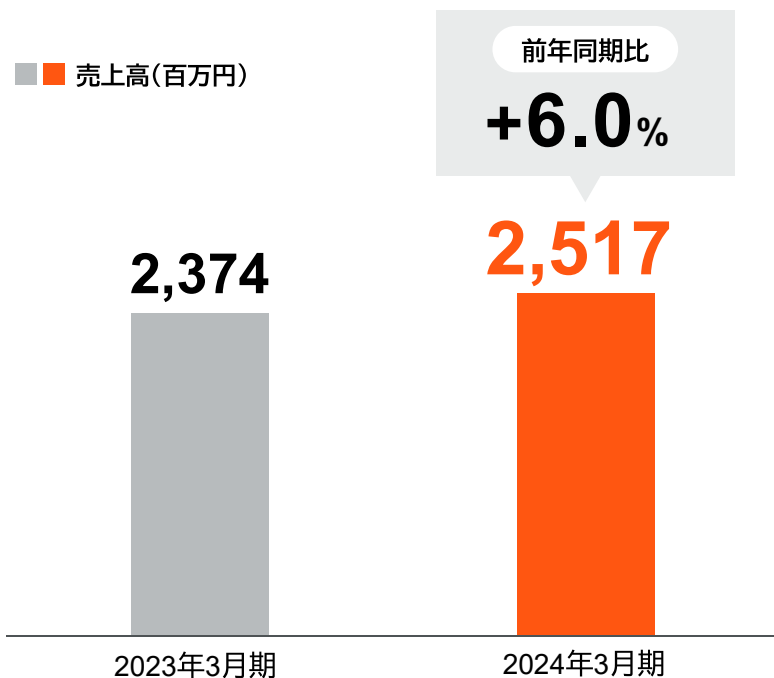
半導体関連需要の低迷が響き減益



# ◆ 決算概況 建材及び舗装用材事業

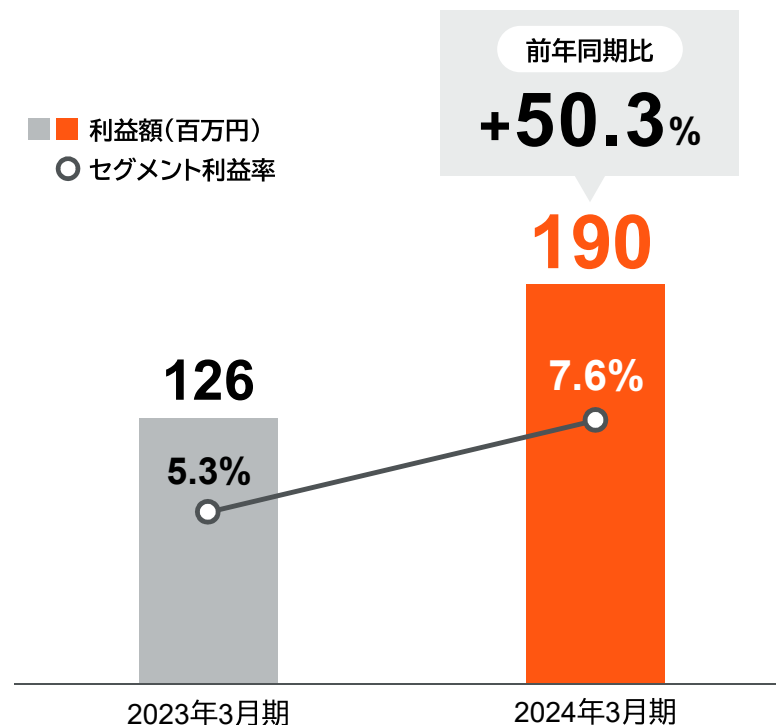
## 売上高

主要顧客の一つである鉄道各社向けの売上回復、及び各種製品の価格改定により増収



## セグメント利益

価格改定が浸透した他、鉄道各社向けの売上回復により増益



# ◆ 連結貸借対照表

- ✓ 社債や仕入債務の減少、利益剰余金の増加等により、自己資本比率は66.7%に上昇
- ✓ 健全な財務基盤を確保

(百万円)

	2023年3月末	2024年3月末	増減額	
流動資産	11,751	<b>12,394</b>	+643	<ul style="list-style-type: none"> <li>現金及び預金 +1,273</li> <li>売掛金 △633</li> </ul>
固定資産	8,016	<b>7,989</b>	△26	
資産合計	19,768	<b>20,384</b>	+616	
流動負債	5,806	<b>5,244</b>	△561	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年内償還予定の社債 △200</li> <li>電子記録債務 △154</li> <li>支払手形及び買掛金 △100</li> </ul>
固定負債	1,501	<b>1,547</b>	+46	
純資産	12,460	<b>13,592</b>	+1,132	<ul style="list-style-type: none"> <li>利益剰余金 +788</li> </ul>
負債・純資産合計	19,768	<b>20,384</b>	+616	
自己資本比率	63.0%	<b>66.7%</b>	+3.7pt	<p>参考(2024年3月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有利子負債残高 1,530</li> <li>D/Eレシオ 0.11倍</li> </ul>

## ◆ 連結キャッシュ・フロー

- ✓ 売上債権の減少等により、現金及び同等物は3,882百万円へ増加
- ✓ キャッシュを確保しつつ、中長期的成長を見据えた投資や株主還元を強化

(百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	前年同期比	
営業活動による キャッシュ・フロー	740	<b>1,891</b>	+1,151	..... 売上債権の減少等
投資活動による キャッシュ・フロー	△221	△ <b>160</b>	+61	..... 投資有価証券の売却による収入等
フリー・キャッシュ・フロー	518	<b>1,731</b>	+1,213	
財務活動による キャッシュ・フロー	△287	△ <b>458</b>	△170	..... 社債の償還による支出や配当金の 支払等
現金及び現金同等物	2,609	<b>3,882</b>	+1,273	



# 中期経営計画





地球環境と自社の双方の持続可能な成長を目指した3カ年計画(2023年3月期～2025年3月期)

経営基盤



キー戦略



高品質かつ地球環境に配慮した製品やサービスの開発に注力しデジタルを軸に経営を変革することで、特徴のあるセラミックス企業としての存在感を高め、持続的に成長可能な企業体質をつくり上げる

# ◆ キー戦略 ①サステナビリティ

環境・リサイクルプラント向けの耐火物の販売やエンジニアリングを強化。加えて、次世代省エネルギー型工業炉等のカーボンニュートラルに貢献する技術・製品の開発と事業化を推進

## ■ カーボンニュートラル関連の事例

### 次世代省エネルギー型工業炉の開発※1



省エネルギー型熱処理・工業炉  
(プロトタイプ、有効容積1.3m<sup>3</sup>)

1600度以上の加熱が必要となる高温焼成炉について、当社既存炉と比較して約**40～70%のCO2排出量削減**が可能であることを実証



多孔質セラミックス

炉材として「**ゲル化凍結法による多孔質セラミックス**」の作製技術を活用した高温用断熱材を使用

TV・新聞でも紹介！



リジェネレイティブバーナー

廃熱回収・再利用機能をもつ「**高効率リジェネレイティブバーナー※2**」を炉内に実装



水素燃焼バーナー

早期製品化を目指すとともに、当社開発の高効率熱交換器や水素燃焼バーナーとの組み合わせも検討

※1 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託事業で開発  
※2 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社製



# ◆ ①サステナビリティ個別目標の進捗

目 標	23年3月期実績 (昨年度公表済)	24年3月期実績	25年3月期計画
CO <sub>2</sub> 削減及び省エネに資する設備の開発	自社高断熱プロトタイプ炉において従来比36%の燃料使用量削減を達成	従来焼成炉に対し、40-70%のCO <sub>2</sub> 削減省エネ炉開発に関するプレスリリース、炉材に関する特許化、高機能セラミックス展での展示を実施	プレスリリース製品の2024年度中の技術の確立と販売促進
不焼成レンガ、ゲルボンドキャストブル等カーボンニュートラルに資する耐火物の開発	ゲルボンドキャストブルは特許を申請済	再加熱収縮を抑制した超多孔体、高効率施工に貢献するゲルボンド乾式吹付け材の開発	リサイクル原料の耐火物への応用拡大
CCUS(二酸化炭素回収・貯蔵・有効利用)に関するノウハウ獲得・展開	海外スタートアップと連携し、セメント、石灰メーカーへのソリューションを展開	カーボンニュートラル操業に資するセメント設備販売に関する顧客フォローアップ	左記を継続
原料リサイクル事業の推進	生産能力を拡大し、老朽化した乾燥炉、粉碎設備を更新	乾燥炉更新によりCO <sub>2</sub> 排出を2021年度比2.2%削減 リサイクル事業拡大のために山岡工場敷地内の整備を実施	更なる設備更新によるリサイクル事業の拡大

# ◆ キー戦略 ②デジタル ③グローバル

デジタル戦略 : デジタル技術による生産性の向上や新規事業開発に注力

グローバル戦略 : 市場動向をとらえた輸出拡大や海外企業との提携強化を図る

## ■ デジタル

### 顧客接点

- 高機能セラミックス製造業界への工業炉やセラミックス材料の供給拡大
- 先端テクノロジーを活用した新サービスの開発

### 社内

- デジタル活用による生産性向上・コスト削減
- 生産工程のIoT・自動化推進

## ■ グローバル

- セラミックス・耐火物・焼成炉の輸出強化
- 顧客への提供価値拡大を見据え、FLSmidth社をはじめとする海外提携先との関係を強化
- 原料調達の最適化(為替・物流等)



## ◆ ② デジタル個別目標における進捗

目 標	23年3月期実績 (昨年度公表済)	24年3月期実績	25年3月期計画
業務のデジタル基盤の整備による生産性の向上及びコスト削減	各拠点へのWi-Fi導入、ペーパーレス会議システム、サーバークラウド化等による業務効率化、働き方改革を実現	IT-BCP策定、ウィルス対策強化、RPAによる労務管理効率化を実現	クラウド環境冗長化、予実管理導入・運用、生産管理構築、工事管理導入検討
耐火物点検業務へのドローン活用等オープンイノベーションを積極活用した技術・サービス開発	国内スタートアップと協業し、顧客設備や自社設備におけるドローンやLiDARを活用しての実証実験を実施	LiDAR技術の活用によるれんが残厚測定に係る実証実験を実施	LiDAR技術の活用による耐火物残厚測定の実証を踏まえ、点検業務の省人化、高精度化、安全性向上に寄与する技術を確立する
生産工程のIoT化推進によるQCD及び環境の改善、自動化の推進	各工場において生産管理の効率化の検討に着手	亀崎工場にて、生産管理のデジタル化を実現。 四日市工場については生産計画のデジタル化に向けた検討に着手	亀崎工場は23年度に導入した成形～焼成工程のシステム運用の定着化とともに、前後工程への拡張検討を実施。 四日市工場については社内でシステム開発を実施

## ◆ ③グローバル個別目標における進捗

目 標	23年3月期実績 (昨年度公表済)	24年3月期実績	25年3月期計画
海外市場へのセラミックス・耐火物輸出の強化	セラミックス、耐火物等の新規開拓を精力的に行うことで海外関連売上高の目標を達成	東南アジアへの耐火物輸出、東アジアにおけるガス焼成炉輸出の推進	左記を継続すると共に更なる販路拡大を目指す
FLSmidth社等提携関係にある設備、耐火物等の海外企業との関係強化	FLSmidth社と連携した、キルンメンテナンス業務を拡大	FLSmidth社方針で当社が日本国内唯一のセメント関係代理店となり、取扱製品/部品の拡充が実現	FLSmidth社との協力関係の更なる推進

# ◆ 定量目標

顧客業界や原燃料価格の動向を見極め、時代に適合／先取りした製品開発や事業拡大を進める。  
最終年度(2025年3月期)の売上高・営業利益・海外関連売上高は過去最高を目指す



(百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画
売上高 (前期比)	12,410	14,609 (+2,199)	14,159 (△449)	15,500 (+1,341)
営業利益 (前期比)	864	1,394 (+529)	1,352 (△42)	1,500 (+148)
ROS(売上高経常利益率)	7.6%	10.5%	10.4%	10.3%
海外関連売上高 (前期比)	520	1,110 (+590)	1,110 (±0)	1,300 (+191)
配当性向	22.6%	23.9%	27.2%	29.8%
投資	760	690	528	1,025



# 2025年3月期 業績予想



## ◆ 業績予想 2025年3月期

- ✓ 価格改定の推進、顧客設備投資の回復や工事案件の受注増により増収増益を計画
- ✓ 中期経営計画のキー戦略に沿った施策を各事業で押し進め、目標を達成する

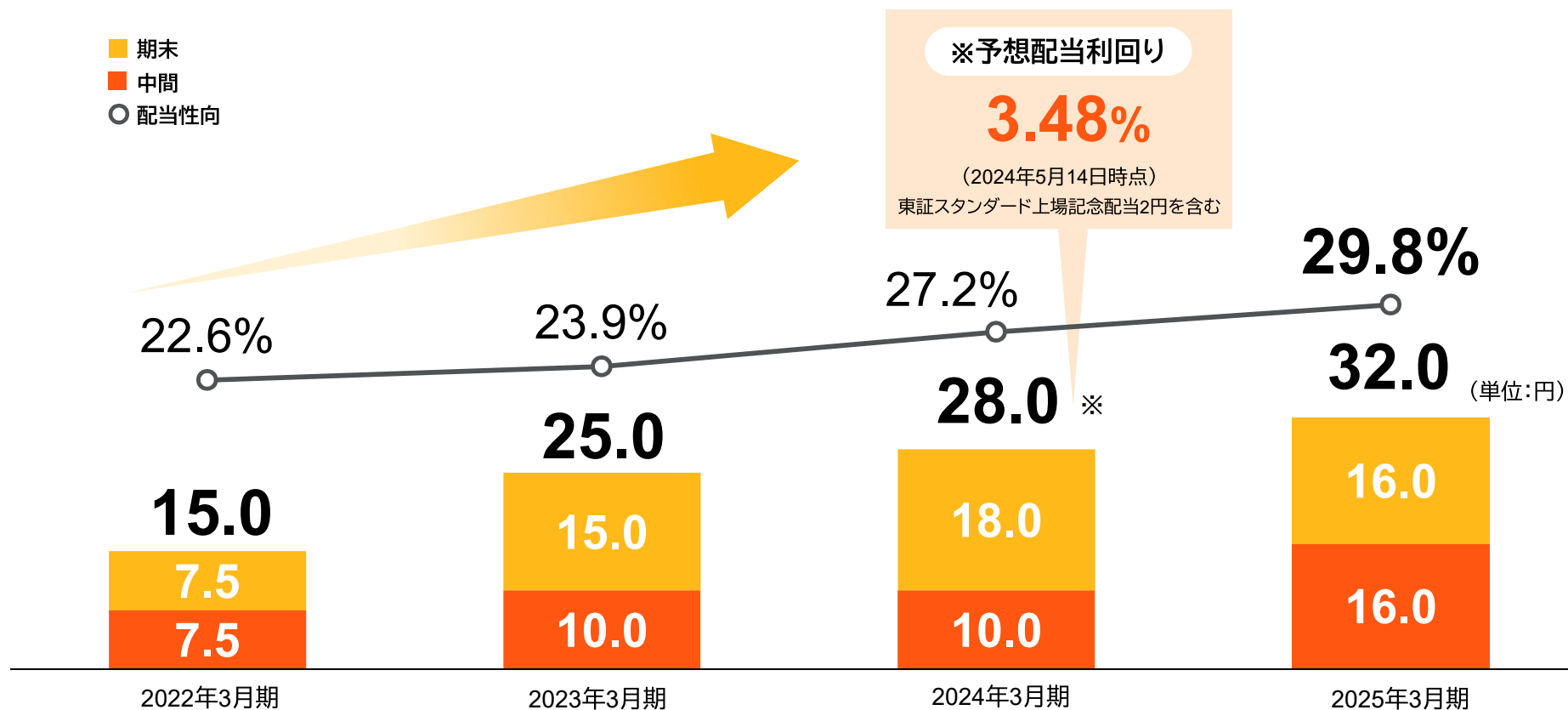
(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期		前年同期比 (増減額)
		予想	売上比	
売上高	14,159	<b>15,500</b>	—	+9.5% (+1,341)
営業利益	1,352	<b>1,500</b>	<b>9.7%</b>	+10.9% (+148)
経常利益	1,469	<b>1,600</b>	<b>10.3%</b>	8.9% (+131)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,054	<b>1,100</b>	<b>7.1%</b>	4.3% (+46)
1株当たり配当金	28.0円※	<b>32.0円</b>	—	14.3% (+4.0)

※東証スタンダード上場記念配当2円を含む

# ◆ 株主還元方針

財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保を確保したうえで、配当性向30%を目指して参ります





本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。